

〈原著論文〉

# GIGA スクール構想下における教師の手作り教材の検討 ——オーストラリアのパネルシアター授業を手掛かりにして——

田 中 正 代

## 抄 録

---

2019年GIGAスクール構想が示され、新型コロナウイルス感染症の流行も影響し、ICT機器の整備が加速化した。ICT機器を使った授業研究が盛んになっていく中で、教師の手作り教材はどのような価値をもつことになるのだろうか。手作り教材の1つであるパネルシアターに着目して、その価値について検討することとした。2002年、オーストラリアでパネルシアターを使った授業を行った。授業に参加した教師に授業の感想を書いてもらった。その感想を基に分析・考察した。その結果、手作り教材の価値として①教師のアドリブで説明内容、速さや見せ方を自在に変えられる②授業に対する教師の思いや考えの具現化を可能にするものの2点が明らかになった。効率化だけを考えてICT機器活用に向かうのではなく、それぞれの教材の特性を理解したうえで、手作り教材を大切にすて適材適所で授業内の教材・教具を選択していくことの大切さが示された。

---

キーワード：手作り教材、パネルシアター教材、オーストラリア、アドリブ、教師の思いや考えの具現化

## 1. はじめに

2019年12月に文部科学省はGIGAスクール構想の実現として、「Society 5.0時代を生きる子供たちに相応しい、誰一人取り残すことのない公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現するため、全ての児童生徒の『1人1台端末』等のICT環境を整備」<sup>(1)</sup>を打ち出し、2020年より4年間かけて教育現場でのICT機器の整備を行う計画を示した。2019年に改訂された小学校新学習指導要領の教科の解説編には新たに「情報能力の活用について」も記された。そのような中、新型コロナウイルス感染症の流行により、急ピッチで学校教育のICT化が進められることとなった。そのことを受けて、教師は自らの情報活用能力を高め、授業にICT機器を活用するために研修や研究を始めている。国のICT機器の活用推進を受けて、教師が今まで行ってきた手書きで作成する

掲示物や学びの見える板書計画，手で動かし説明する手作り教材を授業活用するための教材研究は減少し，ICT機器を活用するための教材研究や研修が増えていくことが推測できる。

著者は長年にわたり小学校でパネルシアター教材の活用について研究をしてきた。授業がICT機器活用に向かう中手作り教材は，小学校でどのような価値をもっていくのだろう。これを機会に検討しておくことが，今後のパネルシアター教材の価値を考えることに繋がると考えた。

ICT先進国と言われるオーストラリアのICT機器の整備が整い始めた2002年，オーストラリアの学校を訪れた。この頃，オーストラリアの教室にはInteractive Whiteboard（電子黒板）の導入が始まっていた。訪問した学校で校長が「電子黒板を導入したので，黒板が半分になりました。これからは，この時代ですよ。」と説明し，電子黒板を起動して教材を見せてくれた。その一方で「確かに電子黒板は便利です。若い人たちはこの授業方法に移行しています。黒板や具体物を使った授業のよさもあるのですが」と話す校長もいた。教師が自ら教材を作らなくなるのではないか。手作り教材から若い教師が離れていくのではないかと懸念しての発言である。この時日本ではまだ電子黒板の導入も進んでおらず，便利なツールを見せられ驚いていた。この校長らの話からいずれ日本も同じようなことを心配する時が来るのだろうと考え，パネルシアターを活用した授業に参加した教師に感想を書いてもらうこととした。パネルシアター教材の価値を考えることで手作り教材の価値が見えてくるのではないかと考えたからである。あれから20年が経ち，日本の教室にICT機器の導入が進んでいる。これからの学校教育において，手作り教材がどのような価値をもつのだろう。当時のオーストラリア教師の感想をもとに，パネルシアター教材の授業活用を検討しこれからの方向性を明らかにしていくこととした。

本研究は，「GIGA スクール構想下における手作り教材の活用のこれからについてパネルシアター教材に絞り検討する」ことを目的とする。

## 2. 研究方法

### 2-1 研究方法

日本人教師ら7人が，オーストラリアでパネルシアター教材を活用して日本文化と日本語を教える授業を行った。授業に参加していたオーストラリア人教師には感想文の意図を口頭で説明し，自由に紙に感想を書いてもらう。聞き間違いをなくするためにインタビューと同時に，本人に文字化してもらう。また，母語の違いから起きるコミュニケーションギャップを少なくするために，表現の仕方などで分からない点はその場でインタビューして確認した。感想記入は，パネルシアター教材を初めてみる教師ばかりだったため「パネルシアターの授業についてどう感じたか」「子どもの様子から教材がどのように働いていると思ったか」などを自由に記述するよう話した。記述は授業直後に行った。また，紙を受け取る際に表現などで気になるところは，その場で確認した。さらに授

業を動画に撮り、感想の内容を確認できるようにした。授業を行った日本人教師らには、毎時間、授業記録を書いてもらった。これらの記録の頻出ワードなどを検討することで、ICT 機器を使った授業が盛んになっていく教室で、パネルシアター教材をどのように活用していけばよいのか、その価値について分析・考察することとした。

## 2-2 倫理的配慮

協力してくれたオーストラリア人教師には、感想を提出するにあたり、個人が特定されないことがないようにし慎重に扱うこと、また収集した感想は研究以外には使用しないことを丁寧に口頭で説明し了承を得た。そのため、本稿には感想を書いた個人名は記載せず、学校名も ABC と記号化して記した。授業風景を記録した動画は、撮影にあたり研究以外には使用しないことを確認し校長に撮影の了承を得た。

## 3. パネルシアター教材の検討

### 3-1 オーストラリアの ICT 教育と日本語教育

オーストラリアは国土が日本の約 20 倍あり、「遠隔教育および放送学校の起源は、同国で連邦政府が樹立した 1901 年にまで遡る」<sup>(2)</sup>。そのため、「1990 年には、ブリスベン (Brisbane) のウェストエンド (Westend) に、遠隔通信制学校を支援する部局が、また 1992 年にはオープンアクセス支援センターが、さらに 1999 年にはアクセスエド (Accessed) という名の支援組織が開設され、印刷物やオーディオ教材の開発、教育プログラムの企画を一元的に行い、州内の各学校間の調整を図ることで、より効率的かつ統一的な教育の提供が可能になった」<sup>(3)</sup>。そして、「2000 年に、インターネット上で『ヴァーチャル学校教育サービス』の提供が開始され、2001 年には、遠隔地のチャールビルでも電話回線を使った授業が本格的に導入されるようになる」<sup>(4)</sup>。このことから、オーストラリアは ICT 機器を授業に活用することは必要に迫られた活用だったことが伺える。そのため、世界でも ICT 機器の先進国の仲間入りをしている。

次に、オーストラリアの日本語教育について確認する。国際交流基金のホームページによると、「1987 年、連邦会議において、英語教育と英語以外の言語 (LOTE: Language Other Than English) 教育に関する報告書『言語に関する国家政策』(The National Policy on Languages) が承認」を受けて「日本の好調な経済と地理的な位置から日本語が重要視され、学習が奨励された結果、オーストラリア全土に日本語学習者が急増」<sup>(5)</sup> した。筆者らのオーストラリア訪問は、日本語学習者の増加している時期にあたり生徒も教師も日本を紹介する授業を歓迎し、授業時間を筆者らに授業として位置づけ提供した。

### 3-2 日本の小学校におけるパネルシアターの活用について

パネルシアターは、1973年古宇田亮順（元淑徳大学，墨田区西光寺）により創案された。いつ頃から小学校の教材として注目されるようになったのだろうか。1999年『学習指導要領解説（道徳編）』に初めて「パネルシアターは低学年の資料提示として有効である」という文言が載る。このことを受けて道徳の指導書や雑誌などで取り上げられることになる。2001年文部科学省から学校への通達文「教材機能別分類表（小学校）」に、生活科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の発表用・表示用教材としてパネルシアターの文言が明記された。2019年学習指導要領改訂ではパネルシアターという文言は確認されていないが、「小学校教材整備指針」の一部改訂では、パネルシアターは学校共有教材の例示品として明記された。では、パネルシアター教材を教師はどんな視点で開発しているのだろうか。田中（2019）<sup>6)</sup>は、教師がパネルシアター教材を制作する視点を①授業の導入や課題提示で子どもを魅了したい②わかりやすい・理解しやすい教材として制作するの2点をあげている。また、教材の特長にも触れておりパネルシアター教材は、「視覚的に強調したり強い印象を与えたりする教材」で、「パネルシアター教材を授業の導入や課題提示に使うこと」が効果的である。さらに、「子どもの反応を確かめながらパネルシアターを演じるのに、教師の立ち位置がちょうど良」く、「教師はパネルシアター教材と子どもの間に位置」し、「子どもにも教材にも近いので、子どもの反応やつぶやきを拾いやすく、子どもの反応に応じた説明や教材の操作ができる」ことが、理解のしやすさに繋がっていると述べる。また、パネルシアターは、必要「最低限の絵で提示することで、余計なものが目に入らず、教師が意図するもののみを視覚に捉えることができる。絵はなるべく単純化し、絵の大きさや描写などに工夫を入れ、授業の『ねらい』となる部分を強調できるようにする。また、制作するうえで最小限の絵を使った構成は、子どもの想像に任せる展開になる」ことも理解しやすい教材開発のポイントとなっているとも述べている。しかし、パネルシアターの教材の認知度は高いとは言えず、教師の中でも開発するポイントを熟知しているものが少ないことは、認知度の低い原因の1つだと推測できる。

### 3-3 オーストラリアでのパネルシアター授業と授業者の感想から

オーストラリアで訪問した学校は、東に位置する Chaters towers, Townsville の学校4校と西に位置する Perth の学校5校の計9校である。学校の場所、学年、参加人数、訪問した時の様子を簡単にまとめたものが、表1になる。授業内容は、表2に示す2パターンで行った。表1の授業内容の①②は表2に示したものである。授業の使用言語は、英語で行ったが、日本語を教えている学校では、習得状況にあわせて日本語も使用して行った。

表 1：パネルシアター授業で訪問した学校

| 日付          | 学校名                                | 場所              | クラス                    | 人数              | ・備考<br>*授業内容（表2・3を参照）                               |
|-------------|------------------------------------|-----------------|------------------------|-----------------|---|
| 8/7<br>(水)  | A school<br>数校が1つの高校の体育館に集まり合同で行う。 | Charters towers | Yr.4～Yr.12             | 約400名           | ・スクーリングに来ている通信制の学生10名を含む<br>・マイクを使った授業<br>*授業①      |
| 8/8<br>(木)  | B High school                      | Townsville      | Yr.8～Yr.10             | 2class<br>約100名 | ・日本語クラス・ドラマクラスの学生<br>*授業②と①                         |
| 8/9<br>(金)  | C primary school                   | Townsville      | Yr.1～Yr.3<br>Yr.4～Yr.6 | 約150名<br>約200名  | ・2回に分けて授業<br>*授業①                                   |
|             | D school                           | Townsville      | 記録なし                   | 約50名            | *授業①  |
| 8/13<br>(火) | E primary school                   | Freemantle      | 記録なし                   |                 | ・海外移住者子女が多い<br>*授業①                                 |
|             | F primary school                   | Freemantle      | 記録なし                   |                 | ・移民子女が多い<br>*授業①                                    |
| 8/14<br>(水) | G College                          | Perth           | Yr.8<br>Yr.9           | 約20名<br>約20名    | ・日本の高校に当たる<br>*授業①                                  |
| 8/15<br>(木) | H school                           | Perth           | Yr.4～Yr.5<br>Yr.5～Yr.7 | 約90名<br>約150名   | ・2回に分けて授業<br>*授業①と②<br>・授業後ワークショップ（子どもがパネルシアターの演示）。 |
| 8/19<br>(月) | I primary school                   | Perth           | Yr.3～Yr.5<br>Yr.5～Yr.7 | 約80名<br>約100名   | ・2回に分けて授業<br>・日本語授業を希望<br>*授業②                      |

表 2：授業内容について（○は重複しないもの）

| 【パターン①】  | 【パターン②】   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介と言葉づくり、日本の紹介</li> <li>・BINGO（歌）</li> <li>○食いしんぼう青虫の話（話）</li> <li>・すきですか、きらいですか（ゲーム）</li> <li>○パズル（ゲーム）</li> <li>・ネズミの嫁入り（日本の昔話）</li> <li>○カレーライス（歌遊び）</li> <li>・アイアイ（歌）</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己紹介と言葉づくり、日本の紹介</li> <li>・BINGO（歌）</li> <li>・ネズミの嫁入り（日本の昔話）</li> <li>○漢字の成り立ち（話）</li> <li>・すきですか、嫌いですか（ゲーム）</li> <li>・アイアイ（歌）</li> </ul> |

### 3-4 授業後に行った感想の結果と考察

パネルシアターを用いて日本語・日本文化を教える授業を行った際、オーストラリア人の教師らの提出した感想が資料 1～資料 8 である。1 つ 1 つの資料の下に考察を記した。手作り教材の効果や特性に繋がる word に着目した。英語の word は辞書で確認し、word を使った意味などを含めて考察に生かした。特長的な word に下線を引き強調した。

#### 資料 1 : A school 教師の感想 07/08

The performance was extremely entertaining and interactive with lots of opportunities for students to learn. It was valuable experience especially in a small town. It helped the students to experience a part of the Japanese lifestyle that they would not ordinarily experience. Fantastic.

「資料 1」から、A 教師はパネルシアターが「extremely entertaining」と「interactive」であると表現している。“extremely entertaining”は“非常に面白い”ことで、“interactive”は“相互作用”と言う意味である。つまり、パネルシアターの授業が楽しめただけでなく、教師と学生の間で相互作用を起こす教材であると捉えていることが分かる。これは教師と学生の言葉のやりとりが盛んな様子からこの言葉で表現したと考えられる。さらに、“It helped the students to experience a part of the Japanese lifestyle that they would not ordinarily experience.”と続けていることから、体験できない日本の生活をパネルシアターが体験させた。つまり、パネルシアターが疑似体験させたと感じていることが分かる。

以上よりパネルシアター教材の価値を表すキーワードとして①相互作用を引き出すこと②体験的な効果があることを挙げている。

#### 資料 2 : B High School の感想 08/08

An excellent performance that was well received by all students. Well done!  
I loved your show very much! You were all excellent!  
Very good performance I liked your stories.

「資料 2」の、“excellent performance”の記載から、パネルシアター授業が好評であったことが分かる。パネルシアターを“performance”や“your show”と言う表現をしている点から通常授業というよりエンターテイナーの行うショーのように感じたと考えられる。これは、その場で舞台などを観ている感覚を味わっているとも考えられる。つまり、人間同士が関わる中で生まれる空気感（臨場感）を感じたのではないかと考えられる。

## 資料 3 : C School 教師の感想 09/08

All of students said it was great! They really enjoyed your performance. The teachers thought it was very good, too. You kept students interested. I liked when you spoke Japanese. It was good to teach the vegetable words for the curry song. Excellent!

「資料 3」によれば，“All of students said it was great!” と “The teachers thought it was very good, too.” が “You kept students interested” に繋がったと記されている。つまり、パネルシアター授業は学生の興味を持続させることができた。授業が学生と教師全員を楽しませた。このことより、パネルシアターには、年齢などに関係なく誰でも楽しませる効果があると言える。特にカレーライスの歌あそびを通して日本語で野菜の単語を言ったことが日本語を覚えるために効果的だと考えていることが分かる。

## 資料 4 : D School 教師の感想 09/08

I thought it was fantastic. It was simple but very effective. As a language teacher I could appreciate the various strategies you were using. There was a high level of interaction. The children felt they were “inside” your presentation. Thank you very much.

「資料 4」から、このオーストラリア人教師は、“They were “inside” your presentation.” と、「子ども達がプレゼンテーションの“中にいた”かのようなだった」と評している。ここでいう “inside” とは、直訳すると、「内部に（ある）」と言う意味である。子ども達が、パネルシアターの世界の中に入っていた、という独自の言い表し方でパネルシアターの特性を表現している。つまり、パネルシアターにはその世界の中に入り込ませる効果をもっていることが分かる。

## 資料 5 : E School 教師の感想 13/08

The performance was very good. The children were very involved with all the story and songs.

「資料 5」によれば，“The children were very involved with all the story and songs.” と「子ども達が全ての物語と歌に深く関わっていた」と記している。つまり、子ども達が、パネルシアターを用いた授業（“story and songs”）に“巻き込まれていた”（“were involved”）と評している。“involve” とは、辞書的には、「① a 《+目》（結果・要素として）（状況・出来事など）を含む。② a + 《+目》[人] を〈…に〉巻き込む、かかわらせる、関与〔参加〕させる〈in〉参加する、携わる。〈in with〉③《受身で》〈…に〉熱中する、引き込まれる」等の意味がある。例文を見ると、“He was involved in his work.”（彼は、仕事に没頭していた）、“His honor is involved.”（彼の名誉が関わってる）、“Become involved in an argument.”（論争に巻き込まれる）というように、まさに、深く関わりあいになったり、どっぷり状況にはまったりするさまを指す言葉である。つまり、パネルシアター授業には、どっぷりと入り込ませる特性があることが分かる。

資料6：F Primary School の教師の感想 13/08

The performance was great to watch. It was good to see the children participate in all the actions. Well done everyone.

「資料6」によれば，“the children participate in all the actions.”と記されているところからパネルシアターの授業は全ての子ども達が参加していたことが分かる。つまり、パネルシアターは全ての子ども達を授業に引き込み、参加させていく効果があると捉えていることが分かる。「participate」は、辞書的には自動詞であり①（活動・出来事に）参加する，加わる，参画する②共有する，分かち合うという意味があり，主体的に参加している意味あいでも記したと考えられる。このことより，パネルシアター授業は子どもが主体的に関わる効果があることが分かる。

資料7：G Collage 教師の感想 14/08

The day went really well and was successful. The students loved the performance and it was worked because they were various activities -the song was great Do-re-mi and because they got to do a performance, they enjoyed that aspect. Well done! I hope you enjoyed yourself.

「資料7」によれば，教師が，日常的に子ども達との活動を大事にしていることが，“they were various activities -the song was great”に繋がったと考えている。「『ドレミの歌』を使った手遊びだったのだが，とても楽しんだ様子が窺える」としており，ここから，子ども達が授業に満足していたとことが分かる。

資料8：H Primary School 教師の感想 19/08

Absolutely fantastic! Fun, motivating, enjoyable, Yes!  
My students enjoyed the performance even though my students are slightly older than the program age for which is planned. It was great, really involved the students and gave them an opportunity to use the Japanese language they have learned with Whittle sensei.

「資料8」によれば，教師の感想は“Fun, motivating, enjoyable”と「楽しく，やる気がおきる」という表現から始まっている。年齢が大きかったため，事前に知らされた授業内容が年齢の低い子供向けではないかと心配があった。しかし，“really involved”と言う表現から子どもがパネルシアターの世界に巻き込まれていったと感じている。既習の事項を使うことができる授業だったことも今回の授業の成功に繋がったと考えていることも分かる。

以上の8つの資料からオーストラリア人教師のパネルシアター教材の捉え方として以下の5つを示唆することができる。

- ① 双方向で対話を活発にする教材（下線部は著者の強調箇所）

教師と教材，子どもの位置関係に着目すると，電子黒板やプロジェクター，パネルシアターは同



じ位置関係（図1）にあり、教師と子ども達が目と目を合わせた授業を進めやすい。だから、子どものつぶやきを拾うことについて差異はないと考えられる。しかし、理解に合わせた操作、提示のスピードや見せ方を子どもの状態に応じて変えることは、手で動かすパネルシアターの方が表現しやすいと言える。このことより、パネルシアターを使った授業は、子ども達のペースに合わせた教師と子ども双方向の対話を促す効果があると考えられる。

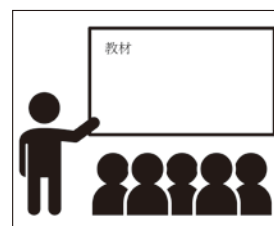


図1：位置関係

## ② 主体的な参加を促す教材

参加していた教師は、感想の中に子ども達が主体的に参加していたことやパネルシアターに集中していたことを表現している。このことは教師の表現の仕方（演技方、提示の仕方、言葉の使い方、話し方など）によるものと教師と子どもの双方向のやり取りの中から生まれていると考えられる。

## ③ 疑似体験できる教材

ICT 機器を活用した疑似体験（シミュレーション）は、医療実習や大学授業などたくさんの事例報告がされている。ある意味、映像や動画での疑似体験は、パネルシアターのように絵で描かれた世界での疑似体験より、現実により近い体験に感じられる。しかし、子ども達の疑似体験は、動画など決められた速度で流れていくものばかりではなく、子どもに適した速度や予測外の出来事に臨機応変に対応できたほうが理解を促しやすいことも多いと考える。つまり手で動かす行為のように、教師のさじ加減でどのようにでも提示が変えられるパネルシアターならではの疑似的体験に繋がると考えることができる。

## ④ その世界に入り込ませる教材

多くの資料に出てきた言葉として“inside”あるいは“involved”を使った表現がある。この言葉を手がかりにパネルシアターの効果について検討する。すると、子ども達がパネルシアターでは、「そのものになりきる」「その世界に入り込む」「気持ちを移入させる」と教師が捉えているように、その世界の住人になりきり、その世界を生きて、その場面での課題に取り組んでいる。この感覚は、子どもたちがパネルシアターの世界に「没入していた」と表すことができる。そして、その「没入」は、年齢に関係なく起きることも分かった。

## ⑤ 臨場感のある教材

ライブ感覚で行われるパネルシアターは、臨場感を大いにもつ。だからこそ、前述した①～④の効果に影響をしているとも言える。さらに、ライブだからこそ子ども達の集中は増し、聞き逃すまいとする。教師も不測の事態にも対応しようとする。このことは子どもの授業への満足度にも影響していると考えられる。

#### 4. 総合考察

3では、パネルシアター教材の効果からその価値について考察した。パネルシアター教材の特長な効果として挙げられた5つの教材効果は、ICT機器を活用した授業でも同じような効果が期待できるところも多い。しかし、手作り教材だからこそ生まれる効果は大切にしていきたい部分であり、授業での活用を続けていきたいところである。以下に授業活用における手作り教材の価値をまとめた。

##### ① 教師のアドリブで説明内容、速さや見せ方を自在に変えられる

前述したように教師と教材、子どもとの位置関係から、教師と子どもが目と目を合わせた授業を進めやすい。そして、子どものつぶやきを拾い、理解に合わせた教材操作や見せ方を変えていくことができる。手で動かすことで、意図的な提示ができたり順序を変えたりすることもできる。理解が不足していると感じれば立ち戻り見せ方や説明を変えることもできる。今まで普通に行っていた授業の手順が、全ての子ども達を集中させ、教師の描く世界に誘い、対話を活発にすることができる。そのため、入念な授業準備、教材研究が必要になる。

##### ② 授業に対する教師の思いや考えの具現化を可能にする

教師は、どんな授業を行う時も前もって指導の流れを考えている。しかし、授業は教師が思い描いた通りに運ばないことも多い。例えば子ども達から思いもしないつぶやきや発言が返ってきて授業の流れを一変してしまうこともある。そのような時、手動であればこそ、教材提示の変更や授業の流れの変更は容易になる。パネルシアター授業を行った教師に聞いたところ、「同じパネルシアターを使って授業をしても全く同じに進んだことは一度もない。目の前の子どもに合わせてパネルシアターの提示の速度を変えたり話す内容を変えたりしている」と言う。つまり、変更が簡単にできるのがパネルシアター教材の大きな特長の1つで、ICT機器では出来にくい部分だと考えられる。さらに、教材制作時の話を聞いた。「絵をシンプルに描き、子どもが理解しやすいように作っている。意図的に強調したい部分に仕掛けを入れるなど工夫を凝らし、驚きや変化を入れることで印象付けるようにしている」と話す。このことは、手作り教材を作る教師が、学びのねらいに沿って自分の思いや考えを具現化して制作に生かしていくことで授業力を高めていると考える。また、このことは、授業内容の理解や深い学びにも繋がっていると考える。

以上より、ICT機器の活用が盛んになる中、手作り教材も忘れてはならない教材である。効率化だけを考えてICT機器活用に向かうのではなく、教材の良さやその授業の内容を伝えるためには何を教材として選ぶことが子どもの理解を促すのかを見極める教師の選択眼も必要になってくる。手作りで教材を作ることは、教材研究、制作に時間がかかる。しかし、教師自身の子どもへの思いや学びを深めるための授業づくりのため、教師自らの意志をもった教材を作ることは大事なこ

とである。そして教材づくりにかけた時間は、教師自身の教える力を高めていくことに繋がっていく。教師として時間をかけなければならないところにはしっかり時間をかけ、授業づくりをしていくことこそ大切なことである。

## 5. おわりに

昨今、教師の多忙性が言われるようになり文部科学省も GIGA スクール構想は仕事の効率化に繋がっていくと考えているようだ。確かに効率化を進めることは大切である。しかし、授業を効率化することは少し違うように考える。従来の授業文化の中には手作りの教材が多く存在していた。今回その中の1つであるパネルシアター教材に絞って、ICT 機器の先進国の1つとされるオーストラリアでの授業を手掛かりに手作り教材の価値について検討してきた。そして手作り教材の価値に繋がる点をいくつか示唆することはできた。しかし、パネルシアター授業に参加していた教師の感想と手作り教材もパネルシアターのものに絞ったことで、教師の感覚的な印象からの分析になった。今後は、ICT 機器とパネルシアターの活用授業の比較や子どもへの影響などを様々な側面から比較し考察していくことで、さらに手作り教材と ICT 教材のそれぞれの価値を見出していきたいと考えている。

### 引用文献

- (1) 文部科学省「GIGA スクール構想の実現へ」  
[https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)(2022年11月18日検索)
- (2) 青木麻衣子 伊井義人「オーストラリアにおける遠隔教育学校の新たな役割」北海道大学大学院教育学研究院紀要第136号 2020年
- (3) (2)に同じ
- (4) (2)に同じ
- (5) Japan Foundation 国際交流基金  
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2020/australia.html> (2022年11月18日検索)
- (6) 田中正代「小学校におけるパネルシアターの教材開発の視点」有明教育芸術短期大学 紀要 第10巻 2019年

### 参考文献

- 鈴木 京子「多文化教育としての LOTE 教育の構築に向けて —オーストラリアの日本語教育における近年の動向に関する一考察—」言語文化と日本語教育 2002年5月特集号
- 小林 道夫「教育における ICT 活用—神奈川大学附属中・高等学校の取組み—」神奈川大学心理・教育研究論集 第35号 2014年  
[3https://www.hummingheads.co.jp/reports/keyword/140519.html](https://www.hummingheads.co.jp/reports/keyword/140519.html)
- 市口恒雄「電子黒板（インタラクティブ・ホワイトボード）導入による教育の ICT 化に向けて」科学技術動向 (139号) 2013年10月号
- 村井万寿夫「電子黒板の活用 —実践上の課題—」金沢星稜大学 人間科学研究 第4巻 第1号

2010年9月

文部科学省「教材機能別分類表（小学校）」2011年

文部科学省「教材整備指針」（一部改訂）2019年8月

Examination of teachers' hand-made teaching methods under the  
GIGA school program:  
Based on Australia's Panel Theater Class

Masayo TANAKA

Abstract

---

In 2019, the GIGA school program was announced, and the spread of COVID-19 affected the development of information and communications technology (ICT) equipment. As lesson studies using ICT equipment gain popularity, what kind of value will teachers' handmade teaching methods have? Focusing on the panel theater, a handmade teaching method, we decided to examine its value. In 2002, I gave a class using a Panel theater in Australia. I asked the teachers who participated in the class to write down their impressions of the class and analyzed and considered them. The results showed that the value of handmade teaching methods is that (1) the contents of the explanation, speed, and presentation can be freely changed by the teacher's ad lib, and (2) the teacher's thoughts and ideas about the lesson can be realized. It became clear that it is more important to understand the characteristics of each teaching method, value handmade teaching methods, and select appropriate teaching materials and appropriate locations, rather than effectively using ICT equipment.

---

**Key words:** Handmade teaching methods, Panel theater for teaching methods, Australia, ad-libs, embodying the thoughts and ideas of teachers